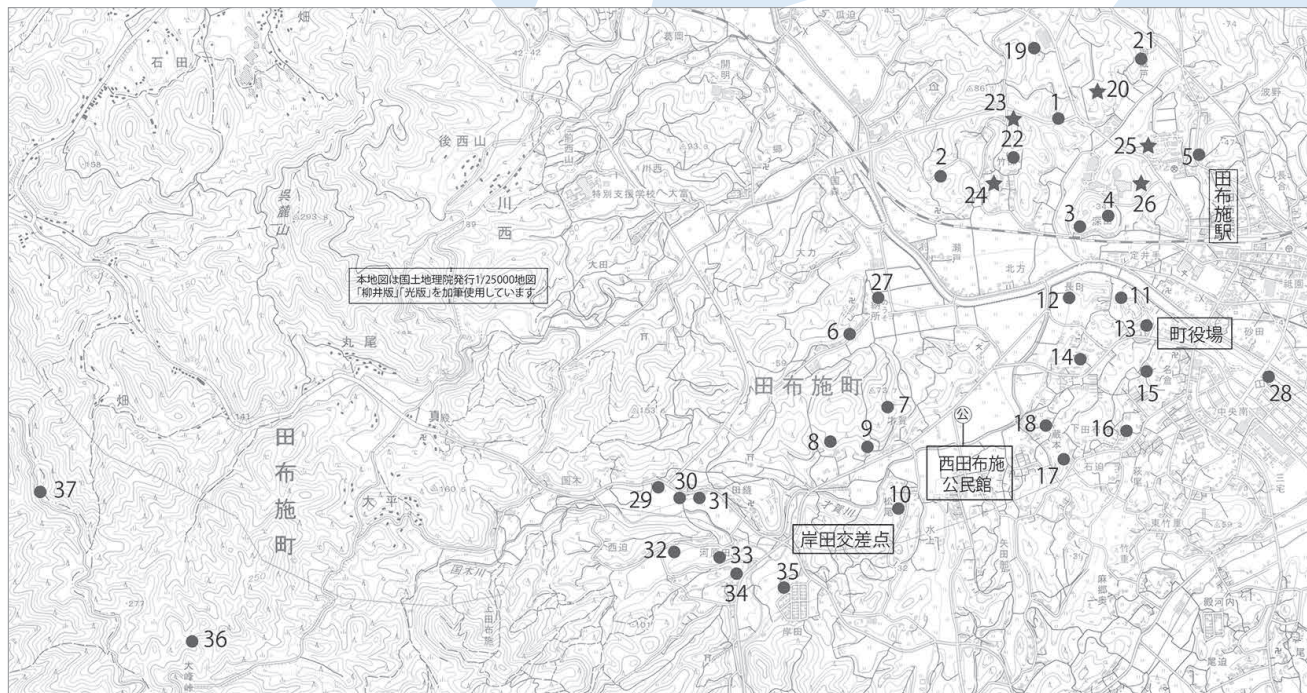


西田布施公民館区域内的遺跡を紹介します

問社会教育課 ☎ 25-3185



18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No
蔵本B遺跡	蔵本A遺跡	石迫遺跡	名倉遺跡	長田遺跡	長田C遺跡	長田B遺跡	長田A遺跡	松尾遺跡	才賀遺跡	才賀B遺跡	才賀A遺跡	納所遺跡	長合遺跡	深田B遺跡	深田古墳	後井遺跡	御蔵戸B遺跡	古墳・遺跡名
弥生〜古墳時代	弥生時代	弥生時代	縄文?・弥生〜中世	調査中	弥生時代〜中世	弥生時代	弥生〜中世	弥生〜古墳時代	調査中	弥生〜中世	弥生〜古墳時代	弥生〜古墳時代	弥生土器など多くの土器が広範囲に散布	弥生〜古墳時代	古墳時代1号・2号墳確認	弥生土器と須恵器が出土	弥生〜古墳時代	時代・特徴など

23	22	21	20	19	No
竹部古墳群	竹部遺跡	御蔵戸A遺跡	御蔵戸古墳群	宿井A遺跡	古墳・遺跡名
古墳時代後期の3基の小円墳を確認。	中世の盛土や屋敷跡、縄文〜中世の土器を確認。	御蔵戸古墳群と接している。試掘調査の結果、御蔵戸古墳群を含む丘陵全体が弥生〜中世にかけての墓域だと考えられる。	御蔵戸古墳群で内部主体は横穴式石室。中央と西側の古墳は、石室材が散乱・露出。	4基の古墳を確認。東側の1基は弥生〜古墳時代の墳丘墓の形態。南側の1基はキツネビラ古墳と呼ばれる、1922年に弘津史文氏によって調査された。古墳時代後期の円墳で内部主体は横穴式石室。中央と西側の古墳は、石室材が散乱・露出。	時代・特徴など

現在、西田布施公民館区域内で『遺跡』が約37箇所確認され、時代は、縄文〜中世とさまざまです。

No	古墳・遺跡名	時代・特徴など
24	稻荷山古墳	規模不明の古墳時代後期の円墳。石室の中に稻荷社が祀られている。石灯籠銘に寛政11年（1779年）とあることからそれ以前に開口されていたと考えられている。
25	農校山古墳	2基の円墳と思われる古墳を確認。うち1基は石室の石材が露出。
26	神山古墳	古墳時代の円墳状の古墳。径は約10m、高さ約70cm。
27	松末遺跡	平安時代前期ごろの掘立柱建物1〜2棟、複数の柱穴などを確認。平安時代の須恵器、緑釉陶器、墨で文字か絵が書かれた墨書土器も出土し、当時の役所関係の人が住んでいた可能性がある。
28	田布施川河床遺跡	河川の底から縄文・弥生時代中期・古墳時代の土器と多数の貝殻。少量の動物の骨を採取した遺跡。
29	大迫A遺跡	中世ごろの掘立柱建物跡1棟、土坑4基を確認。縄文時代の矢じり、平安後期・鎌倉時代ごろの土師器の皿や碗、青磁、銭貨『開元通宝』1点などが出土。
30	大迫B遺跡	柱穴17基、弥生・鎌倉時代の土器出土。
31	田縫遺跡	縄文時代の土坑2基、平安・鎌倉時代ごろの掘立柱建物1棟、炉状遺構1基、溝、柱穴を確認。石器・縄文土器・平安・鎌倉時代の土器が出土。
32	小神田遺跡	平安時代末・鎌倉時代初めごろ（炭素分析結果）の炉状遺構1基、柱穴5基を確認。弥生土器、古墳・平安時代の須恵器、平安・鎌倉時代の土師器の皿や碗、鍋、羽釜と青磁、白磁などが出土。
33	法神田遺跡	柱穴22基を確認。時期不明だが、検出状況などから平安時代後期・中世ごろと思われる。弥生土器、奈良・平安時代前期ごろの須恵器、平安後期・鎌倉時代の土師器の皿や碗、鍋、青磁、白磁などが出土。
34	中西尾崎遺跡	試掘調査で弥生土器・土師器・須恵器などが多数出土。
35	平田遺跡	調査で、弥生時代中期・中世の集落跡であることがわかった。出土遺物は弥生土器や土師器、町内3例目の分銅型土製品が出土。
36	大崩遺跡	1999年の調査で、袋状土坑、竪穴住居跡、石棺様遺構、壺棺などを確認。弥生終末期・古墳時代初頭ごろの高地性集落とされている。
37	東千坊山廃寺跡	光市との境付近に所在。古くから真言宗妙相寺跡と伝わり、山門跡と思われる敷石や、平安時代中期ごろの蓮華文のある軒丸瓦や、唐草文のある軒平瓦などが出土。

こんにちは田布総です

山口県立田布施総合支援学校

校長

石田 真也

本校は、平成19年度までは知的障害養護学校でしたが、現在は5障がい（視覚、聴覚、肢体不自由、病弱、知的）に対応する総合支援学校です。しかし、伝統を生かして知的障害のある子どもたちのみが在籍しています。マスコミなどで注目されている発達障害だけのお子さんは対象ではありません。

本校の教育目標は『豊かな心と生きる力を育み、自立と社会参加できる人づくりをめざす』です。平成32年9月に、旧田布施工業高校の校舎に高等部のみ移転します。町役場に近い所に行きますので、地域の皆さまとより触れ合う機会も多くなると思います。是非よろしくお願い申し上げます。

また、昨年度からコミュニケーション・スクールとなり、地域とともに歩み、さらに、地域に愛

される学校となるよう努力しております。

私たちは、共生社会（これまでも必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障がい者などが、積極的に参加・貢献していくことができる社会であり、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会）の実現を目指しています。どなたでも、障がいのある状態になることもありえます。社会にいろいろな人が暮らしている。その多様性をしっかりと認めることが大切であると思います。

私たちは、今まで生きてきた中で得た経験により、自分自身の考えが作り上げられていきます。その考えと違うものであった場合、受け入れることはなかなか難しいことかもしれません。しかし、人を尊重するということとは、他の人から自分も尊重してもらえらるることにつながるのですから、多様性を認めることが大事であることは忘れてはならないことだと思います。